

2024年版

大企業における「2025年の崖」への対応に関する実態調査

～約8割の大企業がレガシーシステムの刷新を予定～

大企業における「2025年の崖」に関する実態調査
テックタッチ株式会社

© 2024 Techtouch.



調査概要

調査実施者	テックタッチ株式会社
調査概要	大企業における「2025年の崖」に関する実態調査
調査方法	IDEATECHが提供するリサーチPR「リサピー®」の企画によるインターネット調査
調査期間	2024年8月23日～同年9月9日
有効回答	レガシーシステムが残っている大企業(従業員数1,000名以上)の 情報システム担当者528名 ※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

大企業における「2025年の崖」に関する 実態調査

TOPIC 01

半数以上の大企業において、運用するシステムのなかで
レガシーシステムが占める割合は「50%以上」

TOPIC 02

約8割の企業が「2025年の崖」への対策として
レガシーシステムの刷新を進めている

TOPIC 03

約6割の大企業が「既存システムから新規システムへの
完全な移行」を検討

Q1

あなたのお勤め先で運用しているシステムのうち、
レガシーシステムが占める割合を教えてください。



半数以上の大企業で、
運用しているシステム
の中でレガシーシステム
が占める割合は
「50%以上」

大企業の多くでは、現在もレガ
シーシステムが運用されている
ことがわかりました。

レガシーシステムの更新が進ん
でいない実態が伺えます。

Q2

最もレガシーシステムが残存している領域を教えてください。



テックタッチ株式会社
大企業における「2025年の崖」に関する実態調査
(n=528)

最もレガシーシステム が残存している領域は 「基幹システム」

レガシーシステムが残存している領域として、54.5%が「基幹システム」を挙げました。

基幹システムは企業経営を支える重要なシステムであり、レガシーシステムからの脱却が急がれます。

Q3

あなたのお勤め先で、レガシーシステムを刷新しようと考えている時期を教えてください。



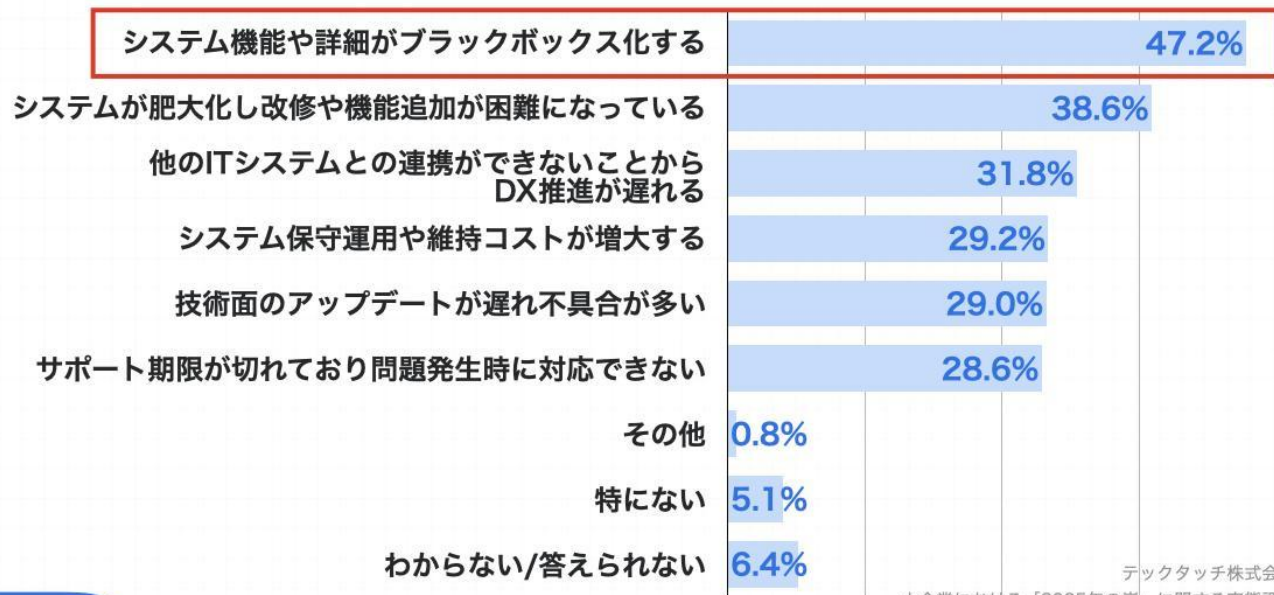
約半数の企業が1～3年以内にレガシーシステムの刷新を検討

レガシーシステムの刷新時期について、20.7%が「1年以内」、28.0%が「1～3年以内」と回答しました。

約半数がSAPの標準サポートが終了する2027年をターゲットに刷新を検討しているようです。

Q4

あなたのお勤め先で、レガシーシステムが要因で発生している問題を教えてください。（複数回答）



テックタッチ株式会社
大企業における「2025年の崖」に関する実態調査
(n=528)

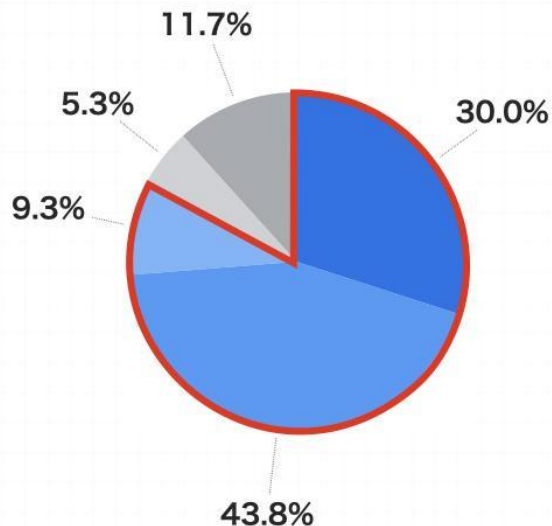
レガシーシステムを起因とした課題、第1位「システム機能や詳細のブラックボックス化」

約半数が、「システム機能や詳細がブラックボックス化する」という課題を抱えていることが明らかになりました。

次いで、「システムが肥大化し改修や機能追加が困難になっている」(38.6%)、「他のITシステムとの連携ができないことからDX推進が遅れる」(31.8%)などの課題も挙げられています。

Q5

あなたのお勤め先では、2025年の崖に対策するためにレガシーシステムの刷新を進めていますか。



- 30.0% すでに進めている
- 43.8% 一部進めている
- 9.3% まだ進めていないが、計画は立てている
- 5.3% 全く進めていない
- 11.7% わからない/答えられない

約8割の企業が「2025年の崖」への対策として、レガシーシステムの刷新を推進

レガシーシステムの刷新に取り組んでいる企業は約8割に上りました。

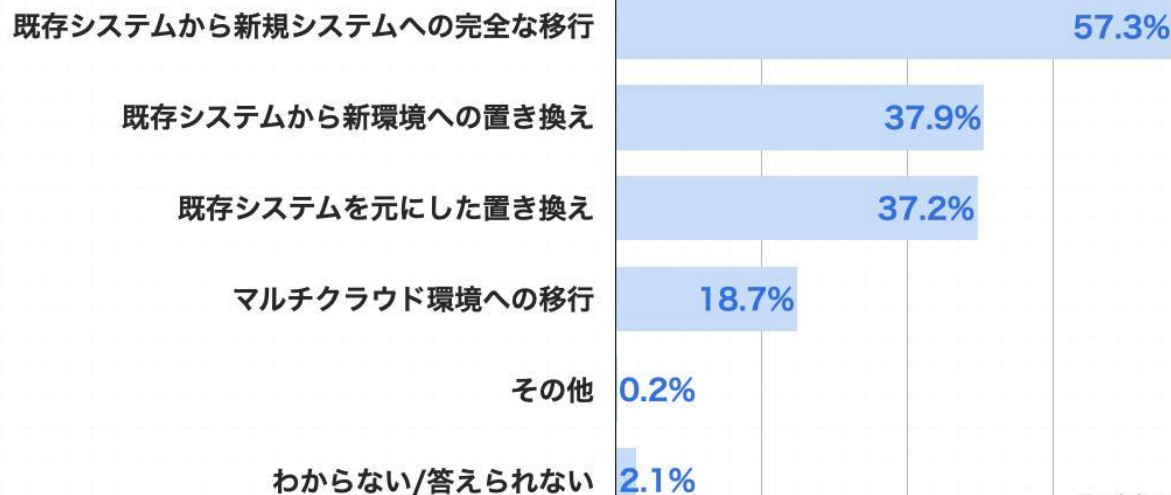
多くの企業が、「2025年の崖」への対策の重要性を認識していることが伺えます。

Q6

※Q5で「すでに進めている」「一部進めている」

「まだ進めていないが、計画は立てている」と回答した方に質問

**2025年の崖に対応するため、レガシーシステムに対して
どのような対処を検討・予定していますか。（複数回答）**



テックタッチ株式会社
大企業における「2025年の崖」に関する実態調査
(n=438)

「2025年の崖」に向けた対策について、約6割の大企業が「既存システムから新規システムへの完全な移行」を検討

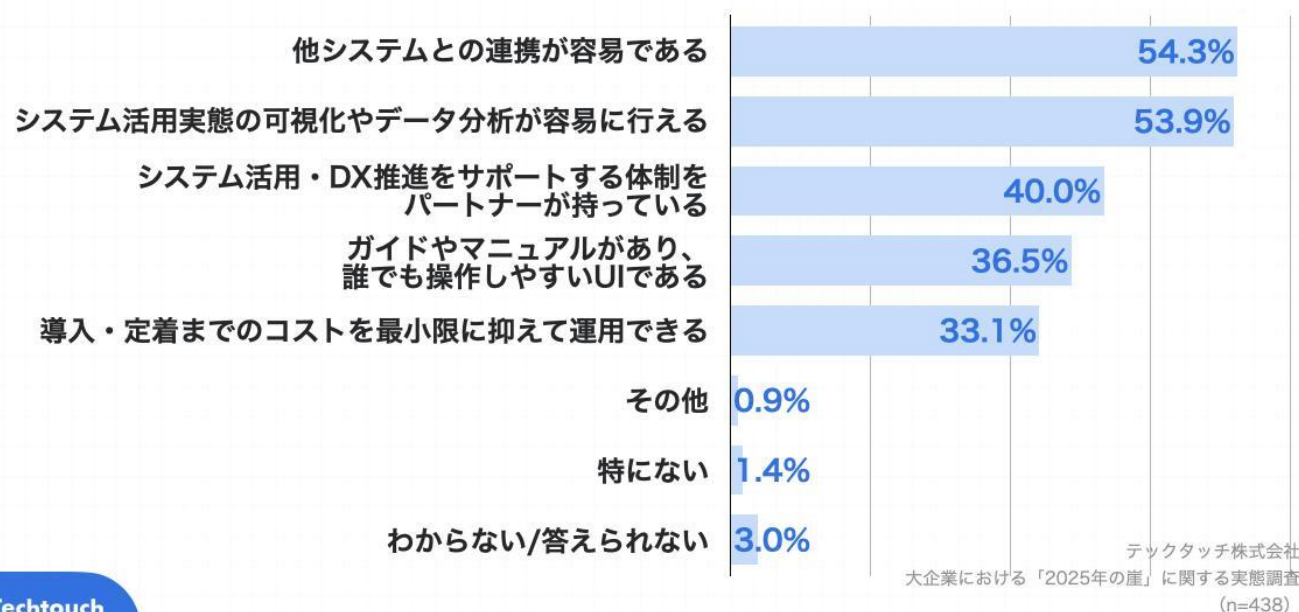
具体的は対策としては、「既存システムから新規システムへの完全な移行」が57.3%で最多となりました。

Q7

※Q5で「すでに進めている」「一部進めている」

「まだ進めていないが、計画は立てている」と回答した方に質問

レガシーシステムの刷新後の新システムに求めることを教えてください。（複数回答）



レガシーシステム刷新後の新システムに求めること、「他システムとの連携が容易」「システム活用実態の可視化やデータ分析が容易」が上位

半数以上が、新システムに対して、「他システムとの連携」や「システム活用実態の可視化やデータ分析」が容易に行えることを求めています。

これらは、新システムの定着・活用を図るうえで重要なポイントと言えるでしょう。

レガシーシステムが残っている大企業(従業員数1,000名以上)の情報システム担当者を対象に、大企業における「2025年の崖」に関する実態調査を実施しました。

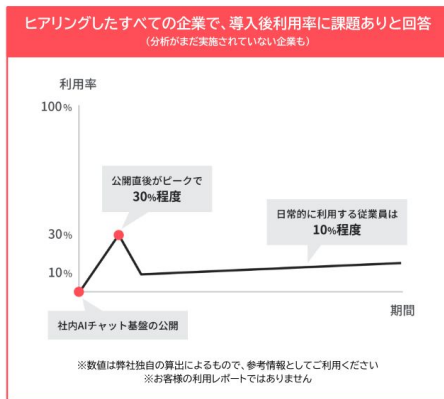
- 運用しているシステムのうち、レガシーシステムが「50%以上」を占めると回答した大企業の割合は約半数
- 最もレガシーシステムが残存している領域は「基幹システム」(54.5%)
- レガシーシステムを起因とした課題で最も多かったのは、「システム機能や詳細がブラックボックス化する」(47.2%)
- 「2025年の崖」への対策として、約6割の企業が「既存システムから新規システムへの完全な移行」と回答
- 約半数の企業が1～3年以内にレガシーシステムの刷新を検討していると回答し、既に約8割の企業が対策を推進
- 刷新後の新システムに求めることで多かったのは、「他システムとの連携が容易に行える」(54.3%)や「システム活用実態の可視化やデータ分析が容易に行える」(53.9%)など

多くの大企業で「2025年の崖」への対応が進んでいることが明らかになりました。

約6割の大企業が既存システムから新システムへの完全移行を予定しており、レガシーシステムが事業に与える影響はもちろんのこと、刷新後の新システムの定着・活用に向けた取り組みも求められています。

AIで未来の働き方を創造！企業向け生成AI活用プラットフォーム「Techtouch AI Hub」β版とは

業務システムなどWebブラウザ上のあらゆるページにシームレスに生成AIを組み込み、従業員の業務効率化とAI教育を実現できるサービスです。



AI活用を推進するプロジェクトチームを立ち上げる企業も増えていますが、効果的な活用事例のアイデア出し、自社業務へのカスタマイズ、利用促進などにノウハウがなく、普及が進まないという課題を抱えている企業が多いのが現状です。

▼詳しくはこちら <https://techtouch.ai/>

従業員が使うシステム画面上に、**ChatGPTへの導線を設置**できます。
従業員は**AIへのアクセスが容易**になり、**システムや業務に合わせたAI利活用を促進**します。

従業員が使うシステム画面上に、**ChatGPTへの導線を設置**できます。
従業員は**AIへのアクセスが容易**になり、**システムや業務に合わせたAI利活用を促進**します。

業務に合わせた回答

システム画面上にChatGPTへの導線を設置

その後、会話を続けることも可能

ユーザーの利用状況を可視化する管理・分析機能も備えています。
「Techtouch AI Hub」により、AIをユーザーフレンドリーな存在として活用できる環境を整えることで、従業員、ないし法人のAI利用率向上、それによる生産性向上に寄与します。

テックタッチ株式会社

設立 2018年3月1日

〒105-7105

住所 東京都港区東新橋1-5-2

汐留シティセンター5階 ワークスタイリング内

社員数 130名(2024年9月時点)※正社員のみ

累計資金調達額 24億円(シリーズBまでの累計)

DNX Ventures

アーキタイプベンチャーズ株式会社

DBJキャピタル株式会社

三菱UFJキャピタル株式会社

SMBCベンチャーキャピタル株式会社

みずほキャピタル株式会社

電通ベンチャーズ ほか

投資家情報
一部抜粋

日本DX大賞支援機関部門 ファイナリスト選出(2022年)

グッドデザイン賞 受賞(2022年度)

総務省後援 ASPIC IoT・AI・クラウドアワード 基幹業務系

ASP・SaaS部門 準グランプリ 受賞(2022年)

SAP AWARD OF EXCELLENCE2023 Partner

Innovationアワード 受賞(2023年)

経済産業省「J-Startup」選出(2023年)

受賞歴

ITreview 「ITreview Grid Award」2部門にて5期連続

「Leaders」受賞(2024年)

東京都ベンチャー技術大賞 特別賞受賞(2023年)

日本経済新聞社「スタ★アトビッチJapan」りそな銀行賞 受賞
(2024年)

デロイト トーマツ グループ「Technology Fast 50 2023
Japan」8位(2024年)



※1 弊社調べ、MAU換算

※2 出所:株式会社アイ・ティ・アール「ITR Market View コミュニケーション/コラボレーション市場2023」
「デジタル・アダプション・プラットフォーム市場:ベンダー別売上金額推移およびシェア(2021~2023年度予測)」

導入企業一覧(社内システムに導入)

2024.10.29 更新

IHI

MS&AD
あいおいニッセイ同和損保

一人ひとりの“生きる”を支える
朝日生命

ORIX
オリックス生命

in 鹿島建設

K LINE
川崎汽船株式会社

COSMO

KOBELCO

SUNTORY

MOL
商船三井

SEKISUI

SOMPO 損保ジャパン

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

DNP
大日本印刷

大陽日酸
The Gas Professionals

中部電力

TDK

東急建設

エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS

TOPPAN

TOYOTA

TOYOTA
SYSTEMS

trans
cosmos
people & technology

NISSAN

日本郵船

brother
at your side

FURUNO

Bell
System24

POLA ORBIS
HOLDINGS

前田建設

mazda

さあ、街から未来をかせよう
三井不動産
MITSUI FUDOSAN

三菱重工

三菱商事

MITSUBISHI
ELECTRIC
Changes for the Better

MUFG
三菱UFJ銀行

MEIDEN
Quality connecting the next

YAMAHA

YANMAR

LINE

RESONAC
Chemistry for Change

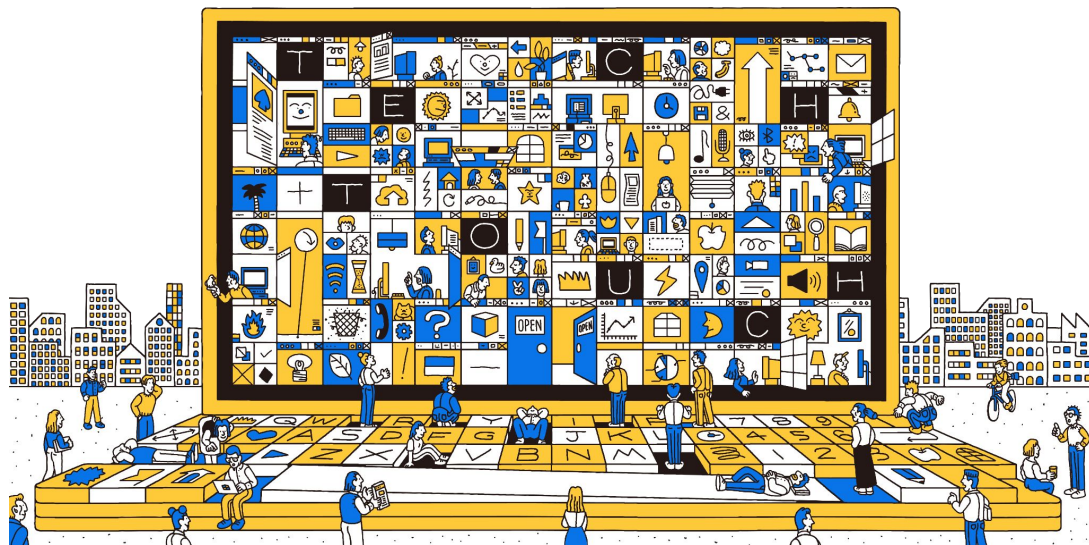
NEVER SAY NEVER
ロート製薬

※公表許可いただいている企業・団体様より一部抜粋(企業名、サービス名については50音順)

すべてのユーザーが、システムを使いこなせる世界に

テックタッチは、どんなwebシステムにでも、
誰でもかんたんに操作ガイドを追加できるサービスです。

操作がわからないことから生じるシステムへの抵抗感をやわらげ、
あらゆる人々が思いのままに
システムを使いこなせる世界に変えていきます。





すべてのユーザーが
システムを使いこなせる世界に

システム導入だけで終わらせない、利活用のためのDXプラットフォーム